資料２－２

平島におけるドブネズミ対策実施状況（小笠原村）

１．目的

近年、生息数が激減しているオガサワラカワラヒワの繁殖地である平島において、ドブネズミによるオガサワラカワラヒワの繁殖阻害リスクを低減し、オガサワラカワラヒワの保全に寄与するため、ドブネズミ根絶を目指した対策を実施する。

２．令和５年度後期の対策状況

（１） 殺鼠剤散布状況及び非標的種への配慮等

● 2023 年 11 月 30 日～12 月 4 日　散布地域：小属島及び周辺離岩礁、平島の一部

平島では 2022 年 12 月から殺鼠剤の全域散布を開始し、2023 年 11 月末時点で平島のドブネズミ生息状況は極めて低密度と推測していた。そのため、2023 年 11 月 30 日～12 月 4 日に実施した対策では、非標的種への影響等を考慮し、平島全域の手撒き散布を行わず、ベイトステーション（以下、BS）散布を実施した。ただし、昨年度未散布の急傾斜地では、海上流出防止対策を講じた上で、手撒き散布（紙パック方式）を実施した。小属島（丸島、二子島）及び離岩礁では、平島への再侵入防止のため手撒き散布を実施した。殺鼠剤散布状況を表 1、散布地点を図１に示す。

表１　殺鼠剤散布状況（2023 年 11 月 30 日～12 月 4 日）

時期	散布地域	散布方法	散布地点数、散布量
2023/11/30～12/4	平島全域	BS 散布（粒剤）	・継続 154 基+セセリ配慮エリア 20 基増設 ・散布量　46.2kg（0.3kg/基）
	平島急傾斜地	手撒き散布（スローパックを入れた紙パック）	・9 地点 ・散布量　12.8kg（20kg/ha 目安）
	丸島	手撒き散布（スローパック）（16 ポスト/ha 、40kg/ha 目安）	・44 ポスト　132 kg
	二子島		・80 ポスト　240 kg
	離岩礁		・9 ポスト　27 kg

図１　殺鼠剤散布地点（2023 年 11 月 30 日～12 月 4 日）

● 2024 年 1 月 15 日～1 月 19 日　散布地域：平島全域

2023 年 12 月 16 日に実施したセンサーカメラ調査において約 10 ヶ月ぶりに平島でネズミが撮影された(詳細は後述)。そのため、緊急対策として 2024 年 1 月 15 日～1 月 19 日に平島全域で手撒き散布を実施した。殺鼠剤散布状況を表 2、散布地点を図 2 に示す。今回の散布では、上述したネズミの撮影地点が沿岸だったことから、沿岸部での地点数を増やし、船から沿岸部の植生を確認しながら手撒きした。資材搬入に 1 日間、手撒き散布に 2 日間を要し、散布期間を短縮して実施した。

表 2　殺鼠剤散布状況（2024 年 1 月 15 日～1 月 19 日）

年月日	散布地域	散布方法	散布地点数、散布量
2024/1/15 ～1/19	平島全域	手撒き散布（スローパック剤） （16 ポスト/ha 、16.7kg/ha 目安）	・642 ポスト ・散布量　802.5kg　(1.25kg/ポスト目安)

図 2　殺鼠剤散布（2024 年 1 月 15 日～1 月 19 日）

● 　殺鼠剤散布時の非標的種への配慮

・オガサワラカワラヒワへの配慮

オガサワラカワラヒワの飛来状況に応じ、冬季に手撒き散布を実施することとした。また、BS 稼働時の喫食リスク低減及び侵入防止策（BS 内部への金属カゴ設置（写真 1）など）を実施した。

→　撮影・点検状況から殺鼠剤を喫食した形跡はみられなかった。

写真 1　金属カゴを設置した BS

・鳥類、昆虫類（オガサワラセセリ他）、陸産貝類などへの配慮

有識者から意見を伺い、移動時の主要ルート使用、踏付け防止等の配慮策を設定し、作業員と確認をした上で作業を実施した（写真 2）。

写真 2　作業前の配慮事項等確認

・殺鼠剤成分の土壌残留状況分析

殺鼠剤成分の土壌残留状況を把握するため土壌サンプルの採取を手撒き散布前後に実施することとした。

→　散布前サンプルは現在分析中であり、2 月に散布後サンプルの採取予定である。

・外来種対策

外来種対策として、作業員への注意事項の共有、資材冷凍及びアルコール噴霧、衣類確認、靴底洗浄等を実施した。

● 　海上流出防止の対応

手撒き散布時は船上から殺鼠剤流出の監視を行った（写真 3）。

→　海上流出の確認は無かった。

写真 3　船上での監視状況

（２）　ネズミモニタリング状況

● 　カメラ設置時期

<u>平島</u>

・2022 年 12 月 3 日～2023 年 6 月 6 日までに平島にネズミモニタリング用カメラを 24 台

（H1～H24）設置した。その後、ネズミが再撮影されたことを受けて、2024 年 1 月 15 日に手撒き散布が困難な崖地付近、離岩礁や小属島に隣接する再侵入が懸念される地点に 3 基増設し（H25～H27）、現在、計 27 台が稼働している。

丸島・二子島

・2023 年 11 月 1 日に二子島(F1～F3)に 3 台設置した。

・2023 年 11 月 2 日に丸島（M1～M2）に 2 台設置した。

● **カメラ設置地点図**

ネズミモニタリング用カメラ設置地点を図 3 に示す。設置密度は 1 台/2ha 程度とした。

図 3　カメラ設置地点（赤丸は 2023/12/16 点検でネズミが撮影された地点）

● **ネズミの撮影状況**

2023 年 12 月 16 日に各島で、2024 年 1 月 9 日に平島でネズミカメラ点検を実施した。データからネズミの撮影率（撮影枚数（10 分補正）/100 カメラ日）を算出し、散布前後で比較した。

平島の撮影状況

2022 年 12 月 24 日からネズミの撮影は無かったが、2023 年 10 月 2 日に平島東端部のカメラ（H01）で 282 日ぶりに撮影された（図 4）。続いて 10 月 12 日及び 14 日に東部のカメラ（H05）で、10 月 15 日には西端部のカメラ（H20）でネズミが撮影された。以降、2024 年 1 月 9 日まで撮影は無く、現在も平島のネズミ生息密度は低密度状態と推測される。

図 4　平島のネズミ撮影状況（2022/12/3～2024/1/9）

丸島及び二子島の撮影状況

丸島及び二子島のネズミ撮影状況を図 5 に示した。丸島では、11 月 30 日全域散布後の 4 日後の 12 月 4 日以降ネズミの撮影は無かった。二子島では、12 月 4 日全域散布後の 4 日後の 12 月 8 日以降ネズミの撮影は無かった。

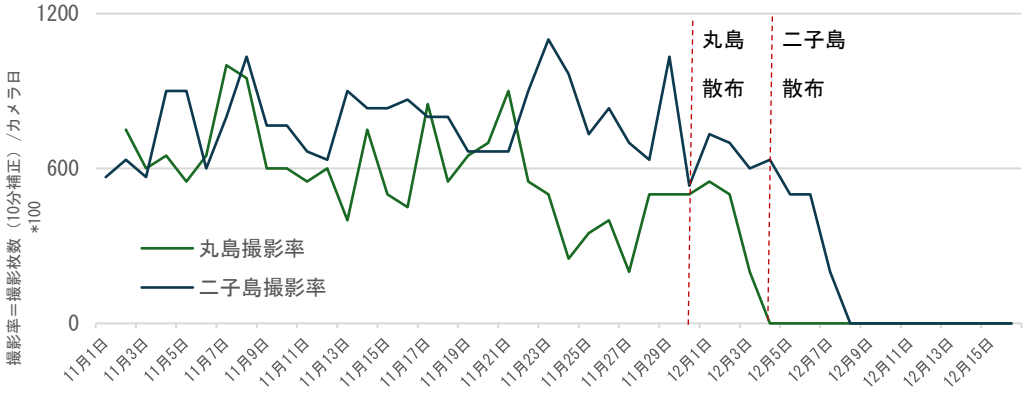


図 5　丸島・二子島のネズミ撮影状況（2023/11/1～2023/12/16）

（３） オガサワラカワラヒワ飛来状況

殺鼠剤散布前後のオガサワラカワラヒワの飛来状況を把握するため、11 月 17 日及び 11 月 28 日にセンサーカメラ調査（林野庁設置、以下カメラ調査）及びセンサス調査、1 月 9 日にカメラ調査、1 月 15 日にセンサス調査を実施した。カメラ設置地点、センサスルート、オガサワラカワラヒワ目撃地点を図 6 に示す。

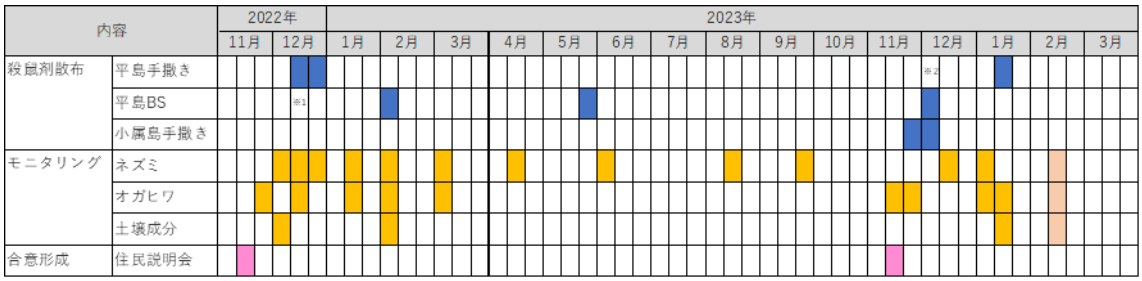
カメラ調査では対策期間中に 3～4 羽程度が撮影された。センサス調査では 11 月 28 日にメス成鳥 1 羽が目撃された。また、1 月 18 日の手撒き散布時に 3 個体目撃した。（一社）Islandscare が設置している自動画像送信機能付きカメラでは、手撒き散布期間中に少なくとも 4 個体の撮影があった。殺鼠剤手撒き散布時のオガサワラヒワへの配慮として、10 羽以上の飛来が確認された場合に緊急捕獲等を行うこととしていたが、その状況は無かった。

図 6　カメラ設置地点、センサスルート及びヒワ目撃地点

（４） 平島ネズミ対策スケジュール（2022 年 11 月～2024 年 3 月）

2022 年 11 月から実施している平島ネズミ対策のスケジュールを表 2 に示す。今後の予定として 2024 年 2 月に各種モニタリングを実施予定である。また、オガサワラカワラヒワの殺鼠剤喫食リスクを低減させるため、今年度中に平島でオガサワラカワラヒワの利用頻度が高いと思われる人工水場付近、採餌場所となる裸地や露岩地を中心にスローパック回収を実施予定である。

表 2　平島ネズミ対策スケジュール（2022 年 11 月～2024 年 3 月）



※１　オガサワラセセリ配慮エリア等、一部の BS で散布
※２　急傾斜地で紙パックに入れたスローパック剤を散布